

報道関係者各位

アーカスプロジェクト2015いばらき | 地域プログラム

〈映像作品のための連続/断続的ワークショップ〉大木裕之と過ごす私の守谷・茨城、日常的妙。
-上映+その他のアクション-

2016年2月27日[土] | 16:30 -19:00

アーカスプロジェクトでは、アーティスト/映画監督の大木裕之氏による長期ワークショッププログラム「〈映像作品のための連続/断続的ワークショップ〉大木裕之と過ごす私の守谷・茨城、日常的妙。」の成果発表として、**上映+その他のアクション**を開催します。

ぜひこの機会にご取材賜りたく、貴誌ならびに貴社情報媒体などに掲載紹介をしていただきたくお願い申し上げます。

Wonders of creation in the daily life here
 -workshops for a filming of Hiroyuki Oki
 Screening and Performance at ARCUS Studio
 Saturday, 27 February, 2016
 16:30-19:00



〈映像作品のための連続/断続的ワークショップ〉
大木裕之と過ごす私の守谷・茨城、日常的妙。
 上映+その他のアクション
 日時 平成28年2月27日(土) 16時30分~19時
 会場 アーカススタジオ

ARCUS
 アーカスプロジェクト 2015 いばらき

〈映像作品のための連続/断続的ワークショップ〉
大木裕之と過ごす私の守谷・茨城、日常的妙。
上映+その他のアクション
 Wonders of creation in the daily life here -workshops for a filming of Hiroyuki Oki
 -Screening and Performance-

日時 | 2016年2月27日[土] | 16:30-19:00
 会場 | アーカススタジオ | 入場 無料

大木は独自の視点を持ちながら日常生活を送り、そしてそれが自身の制作活動と直接的に関わっています。あるテーマをもとにある場を訪れ、出会った人や事象を映像作品という手法を用いて、鋭く繊細な独自の視点で掘り上げます。(特定の場所やコミュニティで長期にわたり撮影された映像には、人々の営み、宗教、政治、美しい自然、街の美しさ、セクシュアリティなど、様々な瞬間が独特の浮遊感と緊張感をもって写し取られている。)大木にとって映像撮影とは、それらを観るに理解し、関わっていくための道具とも言えるでしょう。その膨大な作品群からはカメラが捉えた全てを、さらには画面には映っていない普通の事象の全てをも祝福するような印象を受けます。

〈映像作品のための連続/断続的ワークショップ〉大木裕之と過ごす私の守谷・茨城、日常的妙。では、そんな作家を、守谷・茨城で生活する参加者たちが撮影アシスタントとして見つけ、守谷・茨城で作家が歩き、撮影しました。

大木 裕之 Hiroyuki Oki
 1964年 東京都生まれ。現在 茨城、香川、東京など各地に活動している。東京大学工学部建築学科在学中の80年代より、映像制作を始め、卒業の翌年に制作した「鏡映」(1989)でイメージフォーラム・フェスティバル1990 審査員特別賞を受賞。1991年より高橋嘉に制作活動の拠点を置く。1996年には「天童の六つの箱 HEAVEN-6-BOX」(1994-95/高橋嘉美術監督制作)で、第46回ベルリン国際映画祭ネットパング賞を受賞し、その後も数多くの映画祭にて作品が上映されている。活動は映像制作のみに留まらず、ダンスやパフォーマンス、パフォーマンス・ビデオやウェブメディアなど、その表現はますます多岐に渡る。

主な展覧会に、「時代の体達」展(徳田谷美術館、1999年)、「How Latitudes Become Forms: Art in a Global Age」(ウェーカー・アートセンター/ミネアポリス、米国、2003年)、「六本木クロッシング」(森美術館、2004年)、「マイタロップの時代」(成瀬美術館、2007年)、「Out of the Ordinary」(ロサンゼルス現代美術館 MOCA/米国、2009年)、「伝説的風景-建造物の詩」(のろすから美術館 茨城大学センター、2010年)、「大木裕之展 現代」(高校博物館美術館、2014年)、「筑城70周年-ヒロシマを見つめる三作品 第1弾」(ライオンズ) (広島市現代美術館、2015年)などがある。

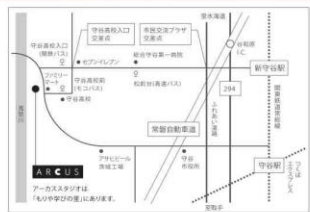
本企画では、2014年度から継続しているこの活動の成果として、上映+その他のアクション を開催。大木氏の制作を発表し、ワークショップ参加者の、または大木のみなさんを感じ、普遍性をもった映像作品として昇華した活動の軌跡を体験し、ぜひアーカススタジオへ足を運びください。

関連プログラム | アフタートーク Related Program | Screen Talk
 ゲスト: 前田 真二郎 Shinjro MAEDA
 映像作家 / 情報科学芸術大学院大学 (IAMAS) 教授
 1969年茨城生まれ。京都市立大学大学院美術研究科終了。映像メディアを「未知を発見する道具」として、コンピュータ空間制作、自然現象による制作や、撮影行為をコンセプトに撮った映像を制作。映画、メディアアート、下半身ダンスなどの分野を横断して、イメージフォーラムフェスティバル、恵比寿映画祭、山形国際ドキュメンタリー映画祭などで発表。舞台や映画など他領域でアーティストとしてのコラボレーション。展覧会の企画も積極的に行っている。
 2009年よりDVDシリーズ「SOUL CHORD」を制作。
 WEBアーカイブプロジェクト「BETWEEN YESTERDAY & TOMORROW」41、第16回文化庁メディア芸術祭「アート部門」にて最優秀賞を受賞。

アーカスプロジェクト 2015 いばらき 主催 | アーカスプロジェクト実行委員会 協力 | ARATANIURANO

問合せ先 | アーカススタジオ 〒302-0101 茨城県守谷市桜戸〒2418 もりや学びの里内
 TEL: 0297-46-2600 (火-土 10:00-19:00)
 E-mail: arcus@arcus-project.com Web: www.arcus-project.com
 FB: http://facebook.com/arcusproject TW: http://twitter.com/arcusproject

アクセス |
 〔電車・バスの場合〕つくばエクスプレス、又は関東鉄道常総線で「守谷駅」下車。駅西口2番乗り場から関東鉄道/バス「新守谷駅」行きで「守谷高校入口」下車。徒歩5分。又は、駅西口1番乗り場からモトバスAルート、毎時20分毎の「いこいの郷-桜戸方面」で「守谷高校前」下車。徒歩2分。
 〔車の場合〕茨城県道水海道方面へ進み、「市民交流プラザ交差点」を左折して直進。又は常磐自動車道「谷和原IC」から約10分。国道294号線「新守谷駅前交差点」を右折、「守谷高校入口交差点」を左折すると左手に守谷高校。正面が「もりや学びの里」です。



企画概要

「〈映像作品のための連続/断続的ワークショップ〉大木裕之と過ごす私の守谷・茨城、日常的妙。」は、アーティストであり、映画監督でもある大木裕之氏と守谷市の参加者による映像制作にまつわる長期ワークショッププログラムです。

時には、参加者が守谷の街中・自然の中を自身の組み立てたプランで大木氏に案内しながら大木氏がその情景・状況を撮影し、時にはアーカススタジオでテーマを設定して全員でディスカッションをし、時には共に食事をしながら互いの人生や生活について話すなど、文字通り参加者は“大木裕之と過ごす”中で映像作品の制作に多様な階層で深く関わりました。このワークショッププログラムを通して、参加者は「映像制作にまつわる膨大な背景や、一方向的でない制作のあり方」を時間をかけて理解し、大木氏の作品には、時間限定で行われるような既存の形態のワークショップを超えた個人対個人の関係や、参加者それぞれの人柄・考え方が直接的な影響としてもたらされました。

今回は、そのワークショッププログラムの成果発表の機会として、**上映+その他のアクション**を開催します。ワークショップにおいて、参加者とアーティストが構築した唯一無二の映像制作プロセスが、普遍性をともなう映像作品（+パフォーマンス）となって発表されます。

実施概要

〈映像作品のための連続/断続的ワークショップ〉大木裕之と過ごす私の守谷・茨城、日常的妙。

-上映+その他のアクション-

日時 | 2016年2月27日(土) 16:30-19:00

会場 | アーカススタジオ (茨城県守谷市板戸井2418もりや学びの里内) 入場 | 無料

アーティスト | 大木 裕之 (おおき ひろゆき)

関連プログラム | アフタートーク ゲスト : 前田 真二郎 [映像作家 / 情報科学芸術大学院大学(IAMAS)教授]

▽以下写真全て、ワークショップの様子



アーティスト紹介

大木 裕之 おおき ひろゆき



1964年東京都生まれ。現在、高知、香川、東京などを拠点に活動している。

東京大学工学部建築学科在学中の80年代より映像制作を始め、1996年には「天国の六つの箱 HEAVEN-6-BOX」(1994-95/高知県立美術館制作)で、第46回ベルリン国際映画祭ネットパック賞を受賞。その後も数多くの映画祭にて作品が上映されている。活動は映像制作のみに留まらず、インスタレーション、パフォーマンス、ドローイングやペインティングと多岐に渡る。

主な展覧会に、「時代の体温」展(世田谷美術館、1999年)、「How Latitudes Become Forms: Art In a Global Age」(ウォーカーアートセンター/ミネアポリス、米国、2003年)、「六本木クロッシング」(森美術館、2004年)、「マイクロポップの時代:夏への扉」(水戸芸術館、2007年)、「Out of the Ordinary」(ロサンゼルス現代美術館 MOCA/米国、2007年)、「大木裕之展「建築の夢」」(ワタリウム美術館 オン・サンデーズ、2010年)、大木裕之展「現代子」(高松市塩江美術館、2014年)、「[被爆70周年:ヒロシマを見つめる三部作 第1部]ライブ=ワーク」(広島市現代美術館、2015年)などがある。

アフタートーク ゲスト



前田 真二郎 まえだ しんじろう [映像作家 / 情報科学芸術大学院大学(IAMAS)教授]

1969年大阪生まれ、京都精華大学大学院美術研究科修了。映像メディアを「未知を発見する道具」と捉え、コンピュータを用いた自動編集による作品や、撮影行為をコンセプトに据えた映画を制作。映画、メディアアート、ドキュメンタリーなどの分野を横断して、イメージフォーラムフェスティバル、恵比寿映像祭、山形国際ドキュメンタリー映画祭などで発表。舞台や美術など他領域アーティストとのコラボレーション、展覧会の企画も積極的にすすめている。2005年よりDVDレーベル SOL CHORD を監修。WEBムービー・プロジェクト“BETWEEN YESTERDAY & TOMORROW”が、第16回文化庁メディア芸術祭・アート部門にて優秀賞を受賞。



お問い合わせ先

◎アーカススタジオ (火-土 10:00 -18:00) 担当 | 藤本
〒302-0101 茨城県守谷市板戸井 2418 もりや学びの里内
TEL | 0297-46-2600 E-mail | arcus@arcus-project.com
Web | www.arcus-project.com

◎アーカスプロジェクト実行委員会事務局 担当 | 大藪
〒310-8555 茨城県水戸市笠原町978番6茨城県企画部地域計画課
TEL | 029-301-2735 Fax | 029-301-2739